

二人小町

芥川龍之介

青空文庫

おのの小町こまち、几帳きちょうの陰かげに草紙そうしを読よんでいる。そこへ突然とつぜん黄泉よみの使つかいが現あれる。黄泉よみの使つかいは色の黒い若者わかしゅ。しかも耳みみは兔うさぎの耳みみである。

小町 （驚おどろきながら）誰たれです、あなたは？

使つかい 黄泉よみの使つかいです。

小町 黄泉よみの使つかい！ ではもうわたしは死ぬのですか？ もうこの世にはいられないのですか？ まあ、少し待まちって下さい。わたしはまだ二十一です。まだ美しい盛りなのです。どうか命いのちは助け

て下さい。

使 いけません。わたしは一天万乗いつてんばんじようの君でも容赦ようしゃしない使なのです。

小町 あなたは情なさけを知らないのですか？ わたしが今死んで御覧みなさい。深草ふかくさの少将しょうしようはどうするでしょう？ わたしは少将と約束しました。天に在つては比翼ひよくの鳥、地に在つては連理れんりの枝、——ああ、あの約束を思うだけでも、わたしの胸は張り裂さけるようです。少将はわたしの死んだことを聞けば、きっと歎なげき死じに死んでしまうでしょう。

使 (つまらなそうに) 歎き死が出来れば仕合せです。とにかく一度は恋されたのですから、……しかしそんなことはどうでも

よろしい。さあ地獄へお伴ともしましょう。

小町 いけません。いけません。あなたはまだ知らないのですか？ わたしはただの体ではありません。もう少将の胤たねを宿して
いるのです。わたしが今死ぬとすれば、子供も、——可愛いわた
しの子供も一しよに死ななければなりません。（泣きながら）あ
なたはそれでも好よいと云うのですか？ 闇やみから闇へ子供をやつて
も、かまわないと云うのですか？

使（ひるみながら）それはお子さんにはお気の毒です。しか
し闇魔王えんまおうの命令ですから、どうか一しよに来て下さい。何、地
獄も考えるほど、悪いところではありません。昔から名高い美人
や才子はたいてい地獄へ行っています。

小町 あなたは鬼おにです。羅刹らせつです。わたしが死ねば少将も死に
ます。少将の胤たねの子供も死にます。三人ともみんな死んでしま
います。いえ、そればかりではありません。年とつたわたしの父や
母もきつと一しよに死んでしまいます。（一層泣き声を立てなが
ら）わたしは黄泉よみの使でも、もう少し優しいと思つていました。

使（迷めい惑わくそうに）わたしはお助け申したいのですが、……

小町（生き返つたように顔を上げながら）ではどうか助けて
下さい。五年でも十年でもかまいません。どうかわたしの寿じゆみよ

命うを延ばして下さい。たつた五年、たつた十年、——子供さえ
成人すれば好よいのです。それでもいけないと云うのですか？

使 さあ、年限はかまわないのですが、——しかしあなたをつ

れて行かなければ代りが一人入るのです。あなたと同じ年頃の、
 ……

小町 (興奮しながら) では誰でもつれて行って下さい。わたしの召使めしつかいの女の中にも、同じ年の女は二三人います。阿漕あこぎでも小松こまつでもかまいません。あなたの気に入ったのをつれて行って下さい。

使 いや、名前もあなたのように小町と云わなければいけないのです。

小町 小町！ 誰か小町と云う人はいなかったかしら。ああ、います。います。(発作的ほっさてきに笑い出しながら) 玉造たまつくりの小町こまちと云う人がいます。あの人を代りにつれて行って下さい。

使 年もあなたと同じくらいですか？

小町 ええ、ちようど同じくらいです。ただ綺麗きれいではありません

んが、——器きり量りょうなどはどうでもかまわないのでしょうか？

使 (愛想あいそよく) 悪い方が好よいのです。同情しずすみませ
ら。

小町 (生き生きと) ではあの人に行つて貰つて下さい。あの
人はこの世にいるよりも、地獄に住みたいと云つています。誰も
逢あう人がいないものですから。

使 よろしい。その人をつれて行きましょう。ではお子さんを
大事にして下さい。(得とくとく々と) 黄泉の使も情なさけだけは心得ている
つもりなのです。

使、突然また消え失せる。

小町 ああ、やっと助かった！ これも日頃信心する神や仏のお計はからいであろう。（手を合せる）八百万やおよろずの神々、十方じっぽうの諸し菩薩よぼさつ、どうかこの嘘うその剥はげませぬように。

二

黄泉よみの使、玉造たまつくりのこまち小町を背負せおいながら、闇穴道あんけつどうを歩いて来る。

小町 （金切声かなきりごえを出しながら）どこへ行くのです？ どこへ行くのです？

使 地獄へ行くのです。

小町 地獄へ！ そんなはずはありません。現に昨日きのう安倍の晴あべ
いめい明も じゆみよう寿命は八十六と云っていました。

使 それは陰陽師おんみようじの嘘でしょう。

小町 いいえ、嘘ではありません。安倍の晴明の云うことは何
 でもちやんと当るのです。あなたこそ嘘をついているのでしよう。
 そら、返事に困っているではありませんか？

使 (独白どくはく) どうもおれは正直すぎるようだ。

小町 まだ強情ごうじようを張るつもりなのですか？ さあ、正直に
はくじよう白状しておしまいなさい。

使 実はあなたにはお気の毒ですが、……

小町 そんなことだろうと思っていました。「お気の毒ですが、
」どうしたのです？

使 あなたは小野おのの小町こまちの代りに地獄へ墮おちることになったの
です。

小町 小野の小町の代りに！ それはまた一体どうしたんです
？

使 あの人は今身み持ちもちだそうです。深ふか草くさの少しょう将しょうの胤たねとか
を、……

小町 （憤ふん然ぜんと）それをほんとうだと思ったのですか？ 嘘
ですよ。あなた！ 少将は今でもあの人のところへ百も夜よ通がいを
しているくらいですもの。少将の胤たねを宿あすのはおろか、逢あったこ

とさえ一度もありはしません。嘘も、嘘も、真赤な嘘ですよ！

使 真赤な嘘？ そんなことはまさかないでしょう。

小町 では誰にでも聞いて御覧なさい。深草の少将の百夜通いと云えば、下司げすの子供でも知っているはずです。それをあなたは嘘とも思わずに、……あの人の代りにわたしの命を、……ひどいひどい。ひどい。(泣き始める)

使 泣いてはいけません。泣くことは何もないのですよ。(背中から玉造の小町を下すおろ) あなたは始終この世よりも、地獄に住みたがっていたでしょう。して見ればわたしの欺だまされたのは、反かえって仕合せではありませんか？

小町 (囁かみつきそうに) 誰がそんなことを云ったのです？

使 (怯おず怯おず) やつぱりさつき小野の小町が、……

小町 まあ、何と云う凶ずうずう々ずうしい人だ！ 嘘つき！ 九尾きゆうびの

狐！ 男たらし！ 騙かたり！ 尼天狗あまてんぐ！ おひきずり！ もうも

うもう、今度顔を合せたが最後、きつと喉のど笛ふえに噛かみついてやるから。口惜くやしい。口惜くやしい。口惜くやしい。口惜くやしい。(黄泉よみの使をこづきまわす)

使 まあ、待つて下さい。わたしは何も知らなかったのですから、——まあ、この手をゆるめて下さい。

小町 一体あなたが莫迦ぼかではありませんか？ そんな嘘うそを真まに受けるとは、……

使 しかし誰でも真に受けますよ。……あなたは何か小野の小

町に恨うらまれることでもあるのですか？

小町 （妙に微笑する）あるような、ないような、……まあ、あるのかも知れません。

使 するとその恨まれることと云うのは？

小町 （軽蔑するように）お互たがいに女ではありませんか？

使 なるほど、美しい同士でしたっけ。

小町 あら、お世辞せじなどはおよしなさい。

使 お世辞ではありませんよ。ほんとうに美しいと
思っているのです。いや、口には云われ
ないくらい美しいと
思っているのです。

小町 まあ、あんな嬉し
がらせばっかり！
あなたこそ黄泉に

は似合わない、美しいかたではありませんか？

使　こんな色の黒い男がですか？

小町　黒い方が立派ほうりっぱですよ。男らしい気がしますもの。

使　しかしこの耳は気味が悪いでしょう。

小町　あら、可愛いではありませんか？　ちよいとわたしに触さわらして下さい。わたしは兎うさぎが大好きなのですから。（使の兎の耳を玩おもちゃ弄にする）もつとこつちへいらつしやい。何だかわたしはあなたのためなら、死んでも好いいような気がしますよ。

使　（小町を抱だきながら）ほんとうですか？

小町　（半ば眼を閉じたまま）ほんとうならば？

使　こうするのです。（接吻せつぷんしようとする）

小町 (突きのける) いけません。

使 では、……では嘘なのですか？

小町 いいえ、嘘ではありません。ただあなたが本気かどうか、それさえわかれば好よいのです。

使 では何でも云いつけて下さい。あなたの欲しいものは何ですか？
火ひねずみかわごころも鼠ねずみの裘かほですか、蓬ほうらい菜さいの玉たまの枝えだですか、それとも燕つばめの子こ安貝やすがいですか？

小町 まあ、お待ちなさい。わたしの願ねがはこれだけです。——どうかわたしを生なかして下さい。その代りに小野の小町を、——あの憎にくらしい小野の小町を、わたしの代りにつれて行って下さい。

使 そんなことだけで好よいのですか？ よろしい。あなたの云う通りにします。

小町 きつとですね？ まあ、嬉しい。きつとならば、……
 （使を引き寄せる）

使 ああ、わたしこそ死んでしまいそうです。

三

おおぜい 大勢おおぜいの神将しんしょう、あるいは戟ほこを執とり、あるいは劍けんを提ひげ、小
 こまち 野のの小町こまちの屋根まもを護もっている。そこへ黄泉よみの使お、蹠そう躑ろうと空へ現あれる。

神将 誰だ、貴様は？

使 わたしは黄泉の使です。どうかそこを通して下さい。

神将 通すことはならぬ。

使 わたしは小町をつれに来たのです。

神将 小町を渡すことはなおさらならぬ。

使 なおさらならぬ？ あなたがたは一体何ものですか？

神将 我々は天あめが下したの陰陽師おんみょうじ、安倍あべの晴明せいめいの加持かじにより、

小町を守護する三十番さんじゅうばん神じや。

使 三十番神！ あなたがたはあの嘘つきを、——あの男たら

しを守護するのですか？

神将 黙れ！ か弱い女をいじめるばかりか、悪あく名みやうを着せ

るとは怪けしからぬやつじや。

使 何が悪名です？ 小町はほんとうに、嘘うそつきの男たらしでは
ありませんか？

神将 まだ云うな。よしよし、云うならば云って見ろ。その耳
を二つとも削そいでしまうぞ。

使 しかし小町は現にわたしを……

神将 (憤ふんぜん然と) この戟ほこを食くらつて 往おうじよう生しょうしろ！ (使に
飛びかかる)

使 助けてくれえ！ (消え失せる)

四

数十年後、老いたる女乞食二人、枯芒の原に話している。

一人は小野の小町、他の一人は玉造の小町。

小野の小町 苦しい日ばかり続きますね。

玉造の小町 こんな苦しい思いをするより、死んだ方がましかも知れません。

小野の小町 (独り語のように) あの時に死ねば良かったのです。黄泉の使に会った時に、……

玉造の小町 おや、あなたもお会いになったのですか？

小野の小町 (疑深そうに) あなたもと仰有るのは？ あなたこそお会いになったのですか？

玉造の小町 （冷やかに）いいえ、わたしは会いません。

小野の小町 わたしの会ったのも唐からの使です。

しばらくの間あいだ沈黙。黄泉の使、忙いそがしそうに通りにかかる。

玉造の小町 「

小野の小町 「黄泉の使！ 黄泉の使！

黄泉の使 誰です、わたしを呼びとめたのは？

玉造の小町 （小野の小町に）あなたは黄泉の使を御存知では

ありませんか？

小野の小町 （玉造の小町に）あなたも知らないとはおっしや

れますまい。（黄泉の使に）このかたは玉造の小町です。あなた

はどうに御存知でしょう。

玉造の小町 このかたは小野の小町です。やっぱりあなたのお
馴染みなしみ馴染みでしよう。

使 何、玉造の小町に小野の小町！ あなたがたが、——骨と
皮ばかりの女乞食が！

小野の小町 どうせ骨と皮ばかりの女乞食ですよ。

玉造の小町 わたしに抱きついたのを忘れたのですか？

使 まあ、そう腹を立てずに下さい。あんまり変っていたもの
ですから、つい口をすべにらせたのです。……時にわたしを呼びとめ
たのは、何か用でもあるのですか？

小野の小町 ありますとも。ありますとも。どうか黄泉へつれ
て行って下さい。

玉造の小町 わたしも一しよにつれて行つて下さい。

使 黄泉へつれて行け？ 冗談じょうだんを云つてはいけません。ま

たわたしを欺だますのでしよう。

玉造の小町 あら、欺しなどするものですか！

小野の小町 ほんとうにどうかつれて行つて下さい。

使 あなたがたを！ (首を振りながら) どうもわたしには受け合われません。またひどい目に会うのは嫌いやですから、誰かほかのものにお頼みなさい。

小野の小町 どうかわたしを憐あわれんで下さい。あなたも情なさけは知つてゐるはずです。

玉造の小町 そんなことを云わずに、つれて行つて下さい。き

つとあなたの妻になりますから。

使 駄目だめです。駄目です。あなたがたにかかり合うと——いや、

あなたがたばかりではない、女と云うやつにかかり合うと、どんな目に会うかわかりません。あなたがたは虎とらよりも強い。内心に如に夜叉よやしゃの譬たとえ通りです。第一あなたがたの涙の前には、誰でも意い氣き地じがなくなってしまう。(小野の小町に) あなたの涙などは凄すごいものですよ。

小野の小町 嘘です。嘘です。あなたはわたしの涙などに動かされたことはありません。

使 (耳にもかけずに) 第二にあなたがたは肌身はだみさえ任まかせば、どんなことでも出来ないことはない。(玉造の小町に) あなたは

その手を使ったのです。

玉造の小町 卑いやしいことを云うのはおよしなさい。あなたがそ
恋を知らないのです。

使 (やはり無頓着むとんじやくに) 第三に、——これが一番恐ろしいの
ですが、第三に世の中は神代かみよ以来、すっかり女に欺だまされている。
女と云えばか弱いもの、優しいものと思ひこんでいる。ひどい目
に会わすのはいつも男、会わされるのはいつも女、——そうより
ほかに考えない。その癖ほんとうは女のために、始しじゆう終男が悩ま
されている。(小野の小町に) 三十番さんじゅうばん神を御覧なさい。わた
しばかり悪ものにしていたでしよう。

小野の小町 神かみほとけ 仏わらぐちの悪口はおよしなさい。

使 いや、わたしには神仏よりも、もつとあなたがたが恐ろしいのです。あなたがたは男の心も体も、自由自在もてあそに弄ぶことが出来る。その上万一手に余れば、世の中の加勢かせいも借りることが出来る。このくらい強いものはありますまい。またほんとうにあなたがたは日本國中至るところに、あなたがたの餌食えじきになつた男の屍し骸がいをまき散らしています。わたしはまず何よりも先へ、あなたがたの爪にかからないように、用心しなければなりません。

小野の小町 (玉造の小町に) まあ、何と云う人聞きの悪い、手前勝手な理窟りくつでしょう。

玉造の小町 (小野の小町に) ほんとうに男のわがままには呆あきれ返つてしまいます。(黄泉よみの使に) 女こそ男の餌食えじきです。いい

え、あなたが何と云つても、男の餌食に違いありません。昔も男の餌食でした。今も男の餌食です。将来も男の、……

使（急に晴れ晴れと）将来は男に有望です。女の太政大臣、女の檢非違使、女の閻魔王、女の三十番神、——そうい

うものが出来るとすれば、男は少し助かるでしょう。第一に女は男狩りのほかにも、仕栄えのある仕事が出来ますから。第二に女の世の中は今の男の世の中ほど、女に甘いはずはありませんから。小野の小町 あなたはそんなにわたしたちを憎いと思つて居るのですか？

玉造の小町 お憎みなさい。お憎みなさい。思い切つてお憎みなさい。

使 (憂鬱ゆううつに) ところが憎み切れないのです。もし憎み切れるとすれば、もつと仕合せになっているでしょう。(突然また凱が歌いかを挙げるように) しかし今は大丈夫です。あなたがたは昔のあなたがたではない。骨と皮ばかりの女乞食です。あなたがたの爪にはかかりません。

玉造の小町 ええ、もうどこへでも行ってしまえ!

小野の小町 まあ、そんなことを云わずに、……これ、この通り拝みますから。

使 いけません。ではさようなら。(枯かれすすき芒きの中に消える)

小野の小町 どうしましょう?

玉造の小町 どうしましょう?

二人ともそこへ泣き伏してしまふ。

(大正十二年二月)

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集5」ちくま文庫、筑摩書房

1987（昭和62）年2月24日第1刷発行

1995（平成7）年4月10日第6刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房

1971（昭和46）年3月～1971（昭和46）年11月

入力：j.utiyama

校正：かとうかおり

1999年1月10日公開

2004年3月10日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

二人小町

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>